

宇都宮市立富士見小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答率は、全国平均を11.4ポイント上回っていた。多くの児童が自分に自信を持ち、自己肯定感が高まってきたと思われる。自分のよさを認め、さらに伸ばしていけるよう、道徳科の授業を中心に「こころの教育」に力を入れていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答率は、全国平均を11.0ポイント上回っていた。教師と児童の信頼関係が児童一人一人の自己有用感の高まりに繋がっていると考えられる。今後も学校経営方針に沿って、「ほめて伸ばす指導」に力を入れていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答率は、全国平均を10.3ポイント上回っていた。総合的な学習の時間に実施している『開け！夢のとびら』の学習を通して、児童一人一人が将来設計や目標を立てることができた成果であると思われる。今後も、キャリア教育を各教科に応じて取り扱い、夢や希望を持って努力する児童を育成していきたい。

●「家で、学校の予習・復習をしていますか」の肯定的回答率は、全国平均を4.2ポイント下回っていた。「家で、学校の宿題をしているか」の肯定的回答率は99.1%でほとんどの児童が宿題に関しては家庭で取り組んでいると言えるが、自主的な学習である予習・復習については十分とは言えない。教科に応じた予習・復習の仕方を具体的に指導しながら、家庭学習の充実を図りたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、マンガや雑誌は除く)」の設問において、1日の読書時間が10分に満たない～全くしないに該当する児童の割合が48.1%と約半数を占めている。これは全国平均と比較すると14.5ポイント下回っている。読書経験は語彙力や感受性等を高めていく上で大切であるため、朝の読書や図書館の利用を推奨するなどして本を手にする機会を増やしていきたい。

●「放課後・週末に何をして過ごすことが多いか」の設問に対し、『家で勉強や読書をしている』を選択した児童の割合は全国平均を5ポイント以上、上回っている。その反面、『家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている』を選択した児童の割合も全国平均を約5ポイント上回っている。以上のことから、家庭で勉強・読書もしているがテレビやゲームなどにも時間を費やしている児童が多いことが分かる。家庭で学習や読書をして過ごしている児童を称賛し、家庭学習等に費やす時間を今後も確保していきたい。また、テレビやゲーム等は時間を決めて適度に行うことの大切さを道徳科や学級活動等でも指導し、家庭での過ごし方の改善を図っていきたい。

宇都宮市立富士見小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	各学年ごとに「家庭学習のすすめ」を配付し、学習のめやすや取り組み例を示して、主体的に取り組めるようにする。	「家で学校の宿題をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は99.1%だった。 「家で、学校の予習・復習をしていますか」の肯定的回答率は、全国平均を4.2ポイント下回っていた。